

# 常任委員会行政調査報告

## 総務委員会

（◎）稲垣 守、○小沢 国大、熊澤 一敏、西尾 貞臣、高野 達夫、  
安江美代子、小島 倫明、橋本 哲也、澤田 勝己

◎委員長 ○副委員長

### 5月10日(水) 静岡県焼津市

#### タブレット導入

##### ICT化による経費節減

焼津市役所全職員に、タブレットPCを導入するにあたっては、職員からも不安の声が上がったそうですが、全職員向けに説明会を実施し、加えて各課に出向いて、丁寧に説明を行い、導入について75%の職員の理解を得て導入されました。

コストについては、5年間で総額3000万円の削減、会議のペーパーレス化により紙資源の1割以上の削減、またこういった会議の資料差し替えの時間が省ける等、導入時からのメリットに加え、窓口対応にも、テレビ電話機能を使った言語通訳や手話通訳等考えられる可能性を広げながら行政改革に取り組んでいました。



### 5月11日(木) 神奈川県厚木市

#### 収納対策

##### 収納率の向上に向けて

収税の取組として徴収担当職員の専門性を高め、分業制を導入する事により事務処理作業の軽減、効率化等の効果が出て結果として交渉力や交渉件数が増えました。また、収税に対して今まで以上の滞納者への差し押さえや取得品のインターネット公売などの実施も功を奏しています。

その対策方法もそうですが、徴収担当職員の意識向上など長年にわたる人的教育が根底にあり、収税対策や体制だけでは無く、職員への教育と滞納者への指導など市民を巻き込んだ全体的な税への考え方や納税義務の向上があるからこそ近年滞納者が減り、結果として収納率が上がっていました。



## 福祉厚生委員会

（◎）谷田貝将典、○長田 淳、小川真由美、稲垣 衿子、佐藤 大輔、  
河内 伸一、玉井 宰、船橋 厚

### 5月15日(月) 埼玉県熊谷市

#### 女性消防団員の活動

##### 「チームさくら」活動中

熊谷市では、消防団の充実強化に着目し、救命率向上のため女性消防団員を応急手当普及員として育成し、活動してもらう目的で平成20年4月に17名を採用しました。

「チームさくら」と命名し、活動として毎月の定例会、年間約60回の普通救命講習指導、自主防災組織の訓練での応急手当の指導、消防団員の募集・PR活動を行っています。また、埼玉県女性消防操法大会に出場するため、4月から訓練を実施しているとのことでした。

活動において苦心している点は、一番は家族の理解。また、主な活動の多くが平日に実施している普通救命講習の指導であるが、団員は大学生からお孫さんがいる方まで幅広く在籍しており日程調整が難しいため、参加できる女性団員に限られ一部の団員への負担が大きいことなどでありました。



### 5月16日(火) 千葉県四街道市

#### ワンストップサービス(総合窓口)

##### 市民サービス向上のために

四街道市は、平成22年6月に総合窓口を開設していますが、現在は、福祉関係や子ども手当などの制度変更に伴い説明が複雑となっている業務については、総合窓口での対応ではなく、それぞれの担当課へ誘導しているのが現状であり、このことが現在の課題となっているとのことでした。

効果としては、利用者が複数の窓口で行っていた手続きを専用の1階フロア窓口を集約し、ひとつの窓口で完了することで利便性が向上したとのこと、フロアマネージャーを配置したことにより、利用者の案内がスムーズになったことなどです。

1階窓口は、すべてのサインを目的別に色を変え、文字も大きく一目で分かるような工夫がされていました。ワンストップ窓口を小牧市で導入する場合においても、同様の問題が発生すると思われるため、非常に参考になりました。



# 文教建設委員会

(◎)西尾 貞臣、○加藤 晶子、野々川嘉則、稲垣美佐代、木村 哲也、  
船引 嘉明、鈴木 英治、舟橋 秀和)

5月17日(水)

富山県富山市

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

市民の足ライトレールがまちの魅力

富山市では、将来の世代に責任が持てる持続可能な都市経営として、コンパクトシティが目指されるようになりました。団子と串の如く、市街地と地域拠点を公共交通で結び、拠点の賑わいを維持しつつ市民は車がなくても必要なサービスを享受できるまちづくりを目指すもので、構想の軸となる施策は次の3つです。

- ①公共交通の活性化
- ②地域拠点の活性化
- ③公共交通沿線への居住促進

北陸新幹線開業を契機とした再開発も



ありますが、駅周辺の地価上昇、行政拠点の効率的配置、まちの賑わいなど、設定した評価指標について一定の成果を出しており、今後も持続可能なコンパクトシティの実現に向けて努力していくとのことでした。

本市にとっても、状況や規模は違いがあるものの、巡回バス整備や、居住誘導、地域協働によるまちづくりなど、コンパクトシティ推進に参考となる事業が多くみられました。

5月18日(木)

長野県塩尻市

市立図書館

新図書館建設基本設計に向けて

立地は、JR塩尻駅から徒歩10分の位置で、中心市街地に建設されています。建物自体は塩尻市市民交流センター、通称えんぱーくという複合施設であり、変形5角形地上5階、地下1階建てで、1〜3階は鋼板鉄筋コンクリート造、4・5階が鉄骨造、地下層が鉄筋コンクリート造です。施設の基本概念を反映し、センターの基本設計が策定されたことで、市民の意見を取り入れた図書館をはじめ、子育てや青少年交流、シニア、ビジネス、市民活動に関する情報やサービスを提供する複合施設となり、各分野が連携した機能融合したサービスが図られるものになったとのことでした。

図書館は1・2階で、場所により3階吹き抜けで自然採光を採用し、壁は白を基調としたことで、明るい感じでした。書架に中間採光の採用や、空調は天井ではなく床に吹き出しが設けられるなど工夫がされておりました。

